イタリアのテレビ番組内インタビューにおける「ほめ」の研究

ステファノ・ロチーニョ

〈Sommario〉

Nel presente scritto viene approfondito da un punto di vista socio-linguistico, l'atto linguistico del complimento, osservato nei talk show televisivi italiani. In particolare, l'analisi prende in considerazione il sesso dei parlanti per fare luce sull'attitudine produttiva（da chi a chi）e ricettiva（accettazione o rifiuto）dei complimenti da parte dei parlanti madrelingua italiani. Per il corpus sono state utilizzate parti di talk show televisivi, reperibili sulla piattaforma online dell'emittente nazionale Rai, che contenessero conversazioni tra minimo due partecipanti. Successivamente, estrapolando dal testo i complimenti, si è proceduto all' analisi e alla spiegazione di questi ultimi in base al contesto socio-linguistico in cui comparivano. La ricerca si è rivelata utile per proporre una differente metodologia di analisi socio-pragmatica degli atti linguistici e altresì per rivalutare alcuni degli stereotipi che spesso influenzano il giudizio di altri popoli verso gli italiani in merito all'atto del complimentarsi.

はじめに

最近数多くの研究が「ほめ」を扱っている。「ほめ」は人間関係の潤滑油とも呼ばれるほど，我々の日常会話において重要な役割を果たしている。

そこで本論文では，比較的自由な会話に基づいてイタリアで制作されたテレビ番組に現れるイタリア語の「ほめ」について，社会言語学的な分析を行う。とりわけ，多くの会話の例を基に，テレビ業界のイタリア語母語話者の間では，「ほめ」が性別による明示性と暗示性を重視した上でどのような言語形式で産出されるか，何が「ほめ」の対象となるか，またそれらに対してどのような返答が見られるかを分析する。イタリア語の「ほめ」における言語学的な研究は，管見の限り，イタリアの文献では数少なく，日本語の文献では見当たらない。

そもそも Austin が 1962 年に提唱した発話行為理論では「ほめ」はあまり重視されておらず，話し手による“sympathy”が示される故に，感謝や謝罪と同様に「祝い」として「態度表明型」に含まれる。また，Searle（1969: 65）では話し手による精神的な状態の「表出」としてみなされているが，両方の理論は聞き手に対する肯定的な評価がほめ自体に含意されることを度外視しがちである。一方，Pomerantz（1978）では「ほめ」の「判定宣告型[1)]」の要素が初めて指摘された。本研究では「ほめ」を「話し手も聞き手も両方が良いと認める何かに対し，普段聞き手に向けて発せられる明示的あるいは暗示的に肯定的な評価を与える行為」（Holmes, 1986）と定義して論じる。

Leech（1983: 198）によれば，「ほめ」の受容および拒絶において，丁寧さの原理がパラドクスを生み出している。それは丁寧さの原理の中にある合意の原理（自己と他者との意見の相違を最小限にせよ・自己と他者との合意を最大限にせよ）と謙遜の原理（自己の賞賛を最小限にせよ・自己の非難を最大限にせよ）の衝突によって生じる。実際，「ほめ」の受容によって謙遜の原理を守ることは不可能である一方，「ほめ」を拒絶することによって必然的に合意の原理を破ることになる。このような問題点は Brown and Levinson（1987）のポライトネス理論にも反映されている。Brown and Levinson の研究で明らかになったように，「ほめ」とポライトネスの関係は深い。それは，「ほめ」は同時に話し手と聞き手のフェイスに効果を与えるからである。人間には生まれつきのポジティブ・フェイスとネガティブ・フェイスがあるとされており，「ほめ」がそのどちらかに効果を与える。たとえば，「服装は綺麗だね」とほめられた人はそのほめを受容すれば，「あなたのいう通り，私の服装は綺麗だ」と合意の原理に従いながら話し手のフェイスを守るが，自慢げな態度で自分のフェイスを脅すことになる。しかし，「服装は綺麗だね」と同じ「ほめ」に対し，「違う，綺麗ではない」と「ほめ」を拒絶すれば，謙遜の原理に従い自分のフェイスは守られるが，相手のフェイスを脅してしまう。Holmes（1986）によれば，「ほめ」はポジティブ・ポライトネスに値する行為であり，「注目されたい」，「尊重されたい」，「称賛されたい」という人間に内在する欲望を満たす目的で使われている。また，Alfonzetti（2007: 15）は，Turner and Edgely（1974）が提唱した「愛撫」や「言語的な贈り物」という「ほめ」を特徴づける表現を度々利用している。なお，Alfonzetti（2007, 2013）の研究によれば，イタリア語の「ほめ」は，相手にとって好ましくない話題と共起しにくく，ポジティブ・フェイスへの配慮を重視する傾向にある実態が明らかになっている。

ところで，イタリア語の「ほめ」に関する研究には Alfonzetti（2007, 2011）がある。一方はなぜ「ほめ」が使用されるのかアンケートを用いて分析するもので，もう一方は大学における一般的な会話の録音に基づいた研究である。しかし，これらは発話の場面が視覚的に検証できるものではない。従って，現実的な会話を用いたイタリア語の「ほめ」における分析を実施した研究となると，イタリアの文献でも限定的で，日本の文献では未だなされていないため，本研究で行われる分析に意義があると思われる。また，「ほめ」が性別によっていかなる言語形式で出現するか，何を対象にするか，そしてどのような返答をもたらすかを明らかにすることで，言語に反映されているイタリア社会のあり方に新たな視点を投じることになると思われる。

１．「ほめ」について

今までの研究では，相手と良い関係を築くために女性の方が「ほめ」をよく利用すると指摘されている（Holmes, 1988）。また，Alfonzetti（2009）と Herbert（1990）によれば，「ほめ」を与える行為も，受ける行為も，男性より女性に多く生じる傾向が強いとされている。さらに，Payne（2013）は女性の「ほめ」における評価語と格上げ表現の高い使用頻度を指摘している。

しかし，この研究は女性しか対象にしない分析であるため，それに関する男性との差については特に言及はない。

「ほめ」の対象になりうる要素に関しては，様々な研究がなされている（Alfonzetti, 2013；丸山, 1996; 大野, 2010）。ほめる対象は「ほめ」自体の定義に含意されているように，文化の価値観を反映している。Nelson *et al.*（1993）では「ほめ」の対象が「特定の文化における価値観を覗くことができる窓」とされており，実際に文化によって異なることがしばしばあるので，多種多様な観点（言語学，外国語教育，異文化理解，社会心理学など）からそれらに関する比較研究も盛んに行われている（小玉, 1993; 日向, 1996; Nelson *et al.*, 1993; 大滝, 1996; 田辺, 1996; ウェインベルグ, 2016）。「ほめ」の主な対象には才能，外見，所持物，性格，家族などがあり，欧州文化の中でもイタリア人は主に外見を評価する傾向にある（Alfonzetti, 2013）。

返答に関して，先行研究ではイタリア語母語話者に最も好まれる返答は「感謝」（受容）で，回避や拒絶が比較的に少ないとされている（Alfonzetti, 2011; Payne, 2013）。しかし，いずれもアンケートによる調査であり，視聴覚メディアを使った研究は見当たらない。そこで，本研究では実際の会話を用いた視聴できるインタビューを調査対象とした。

今回取り上げたテレビ番組は，司会者によるあらかじめ用意された質問以外に，映画やバラエティー番組と違い，台本に基づいていない比較的に自然な会話が観察できる。実際に番組の全てが生放送であり，毎回異なるゲストは取材を受けているかのように司会者による質問をその場で初めて聞いて返答を行う。映像に頼りながら，パラ言語学要素（「ほめ」の場合，音律的な音長や抑揚が多い）や言語外言語要素（「ほめ」の場合，親しみ深く愛しい眼差しや微笑みが多い）が考慮に入れられるため，本研究では明示的な「ほめ」をも検証することができた。

ここで，テレビ番組の検証に移る前に，個別の分析にも応用できる Bettoni（2006: 104）の返答分類[2)]をまず紹介したい。それはまとめると以下のようになる（a は「ほめ」で，b はそれに対する返答を表す）。

Ⅰ．受容

a- Che bella cravatta!　（素敵なネクタイだね！）

b- Grazie / Con quanto l'ho pagata / E la tua allora?　（ありがとう／高かったよ／君のも素敵だよ。）

Ⅱ．回避

a- Che bella cravatta!　（素敵なネクタイだね！）

b- È costata pochissimo　（そんなに高くなかったけど。）

a- Come è buona la tua torta!　（なんておいしいケーキだ！）

b- Guarda che è facilissima　（作り方超簡単だよ。）

Ⅲ．拒絶

a- Stai benissimo!　（すごく似合っているよ！）

b- Ma figurati　（そんなわけないでしょう。）

a- Bel taglio di capelli!　（なかなかいい髪形だね！）

b- A me invece non piace per niente　（全然気に入ってないけど。）

1.1　イタリアのテレビ番組で見るほめの分析

本論文で分析を行うにあたり，比較的自然な会話が得やすい（Diadori and Micheli, 2010: 202）と思われる視聴覚メディアを扱い，確認できる実際の会話を含んだ信頼性のあるデータを観察した。もちろん，本研究で扱うデータはいずれも顔が広く知られている有名人によるものであるため，特定のグループのイタリア語母語話者を描いた限定的な描写として解釈されるべきである。だが，台本に基づいていない会話の発信源として，文化の鏡とも言われているテレビはイタリア社会の一部を表し，そこから得られるデータがある程度まで信頼性のあるものだとみなしても良いだろう。

データ源としては，つい最近日本からでもインターネットで視聴可能となった Rai（イタリア放送協会）のオンデマンドサイト“Rai Play”で公式公開されている動画を利用した。そこには，司会者の質問を起点とした自由会話の展開がみられる。その中で，「ほめ」が男女によってどのような形で，何を対象にし，またどのような返答をもたらすかに分析の焦点を当てた。選択した動画では司会者とゲストによる対話のみを調査対象とした。全てのやり取りにおいて，男女年齢を問わず普通体（2 人称単数形を用いて表現されており，イタリア語の「タメ語」に当たると言える）が使われていることから推測できるように，イタリアの芸能界に属する人物の間ではある独自の親近感が存在する。先行研究でも述べられているように，距離のある関係においては目上の人をほめることが少なく（坂本・ウェインベルグ，2017）親近感のある関係においては「ほめ」が現れる確率がより高いため（Alfonzetti, 2007; Payne, 2013; 古川, 2010），数多くの「ほめ」場面の収集にあたりテレビ番組の生放送で見る対話インタビューの利用は相応しいと考えられる。

2．テレビ番組の分析

Rai によってインターネット公式公開されているトーク番組の中で，インタビューで成り立っている 3 つのトーク番組“Che tempo che fa”,“Domenica in”,“Vieni da me”の動画を 13 件視聴した。そこから 105 件の「話し手も聞き手も両方が良いと認める何かに対し，普段聞き手に向けて発せられる明示的あるいは暗示的に肯定的な評価を与える行為」といった発話を「ほめ」とみなして抽出した。その 105 件の発話を「男性から女性へ」,「女性から男性へ」,「男性から男性へ」,「女性から女性へ」4 つのタイプに区分し，男女間の差異を検証した。さらに語用論的な要

素として「明示的」（遂行動詞や評価語を含むほめ）・「暗示的」（間接発話行為によって「ほめ」が含意される）」を含め，「ほめの対象」，「ほめへの返答」，「評価語」という要素を考慮に入れてさらなる分類して分析を行った。

以下，抽出された「ほめ」の一部を紹介し，テレビ番組のイタリア語で見る「ほめ」の諸相を解説しながら，どのように分析を行ったかについて解説する。

2.1 「男→女」：男性から女性への明示的な「ほめ」

① A（男）：B è la donna più allegra, spiritosa e intelligente che abbia mai conosciuto, davvero!
（B は僕が知り合った中で最も明るく，面白くて賢い女性だ，本当に！）
B（女）：（微笑みながら黙る）

男性は評価語の役割を果たす肯定的な形容詞を多用しつつ（allegra，spiritosa，intelligente）B の性格を賞賛する。映像で確認できるように，聞き手は黙りながら嬉しそうに微笑むことで「ほめ」を回避するが，ほめられたことに対する肯定的な態度を示す。

② C（男）：Uno stile pazzesco sempre il tuo, anche negli abiti!　（君って，相変わらずクレイジーだな，服装も！）
D（女）：Ma ci vuole ironia…　（おふざけも必要でしょ…）

形容詞“pazzesco”を使い，話し手の男性は聞き手の女性のスタイルおよび服装をほめる。D は 60 年代と 70 年代に非常に人気が高かった歌手であり，当時独特で大胆な格好の服を着てテレビによく出演していた。「相変わらずクレイジー」（すなわち，当時もこの番組でも）と D は外見をほめられて，自分の格好を正当化するかのように「ほめ」を巧みに回避する。

2.2 「男→女」：男性から女性への暗示的な「ほめ」

③ E（男）：Detesto parlare di politica, però ultimamente c’è…ci vorrebbero degli uomini come tuo padre e forse questo non accadrebbe.　（政治の話をするのは嫌いだけど，最近はね…きみのお父さんのような人間がいたらおそらくこんな状態になってなかっただろう。）

この場合は，放送の撮影編集により女性の返答は確認できないが，男性 E は相手の女性司会者の家族の一員である政治家にある才能を間接的にほめている。女性司会者の父は昔，高く評価されていた政治家であるが，E はイタリアの現在の政治家を批判しながら元々肯定的なイメージを有する相手の親族への呼びかけで「ほめ」を行う。

④ F（女）：Abbiamo pensato, la prima sorpresa fuori cassetto.　（最初のサプライズは，引き出

しの外に置いておこうと考えたの。）

G（男）：Ah…sei tu?　（あ…きみのことか？）

F（女）：Se, ciaooo…grazie, però, grazie, grazie.　（なんて冗談でしょう…でも，ありがとう，ありがとう。）

上記の場面が抽出された番組では，ゲストが大きな箪笥の中に仕込まれているサプライズ（基本的にゲストに関連のある物）をピックアップし，会話が展開される。今回の場面では，女性司会者Fはゲスト G にサプライズが引き出しの中ではなく，外に用意されていると告げる。そこで，G は，そのサプライズが物ではなく女性司会者その人であるかのように振る舞い，一種の口説きのように彼女の美貌を間接的に賞賛する。それに対する返答では，F は一旦そうした G の「ほめ」を断るように見せかけるが，最後に 3 回も感謝の言葉を繰り返していて，「ほめ」の受容が確認できる。

2.3 「女→男」：女性から男性への明示的な「ほめ」

⑤ H（女）：［…］Ed eri anche un bambino molto carino.　（とても可愛い子供でもあったわね。）

I（男）：Grazie.　（ありがとう。）

このトークショーでは，ゲストの幼児時代の写真を振り返ることがしばしばある。この場面では，女性司会者 H がゲスト I の幼い頃の外見を“carino”と評価語を用いて賞賛するところが観察できる。I は，イタリア語で最も好まれるとされている返答のタイプ，すなわち「感謝」で「ほめ」を受容する。

⑥ J（女）：Beh, l’interpretazione era bellissima.　（あなたの演技は素晴らしかったわ。）

K（男）：Era lui che era un grandissimo.　（本当に優れていたのは，彼の方だよ。）

K が出演している昔の映画の VTR を見てから，司会者 J は K の演技に対し評価語の“bellissima”を用いて明示的に彼の才能をほめる。しかし，K はそこで共演していた別の名俳優を自らほめることで，「ほめ」に対する回避的な態度を示す。

2.4 「女→男」：女性から男性への暗示的な「ほめ」

⑦ L（女）：Ma com’è possibile che non hai fatto dire neanche una parolaccia a Sgarbi? Sembravi San Francesco!　（いったい，どうやってズガルビに卑語を 1 つも言わせないなんてことができたの？聖フランチェスコみたい。）

M（男）：No, una l’ha detta.　（いや，一つは言ったよ。）

L（女）：Ammansisce i lupi e tu hai ammansito Sgarbi.　（彼［聖フランチェスコ］は狼をあやし，あなたはズガルビをあやした，といったところね。）

M（男）：Ahaha, va bene.　（あはは，はい。）

女性ゲストLが登場する前に，美術評論家および哲学者であるズガルビという男性がゲストとして同じ番組に出演していた。ズガルビの名前はイタリアの芸能界で広く知られている。巧みな弁術や理論を使い，主に政治について語るが，放送中に怒りを込めて卑語を乱暴に放つことでも有名である。ズガルビがそのような人物であったため，Mがズガルビを怒らせず卑語も言わせなかったことを，Lは肯定的に評価したのだ。そして，Mを動物と話せたとされている聖フランチェスコに例え，更なる間接的な「ほめ」を行う。このような，聖人に含意されている肯定的なイメージを用いた「ほめ」は，カトリックの中でも聖人信仰が根強いイタリアにおいては，特別な価値を得ると思われる。

⑧　N（女）：Insomma il David di Donatello ti ha portato fortuna.　（ダヴィッド・ディ・ドナテッロ賞を受賞してから調子がいいわね。）

O（男）：Assolutamente.　（間違いなくそうだね。）

N（女）：E non hai deluso gli altri!　（そして誰の期待も裏切らなかったわね。）

O（男）：Questo non si può dire.　（それは僕のいうことじゃないよ。）

この場面では，司会者Nは，映画の出演によってOが有名な映画賞を受賞した事実を取り上げて，受賞がOの出演する他の作品にもいい影響を与えていることを述べる。Oはその事実を認めるが，2つ目の（間接的）な「ほめ」に対しては回避的な態度をとる。調子がいいので，様々な映画の出演が決まり，そしていずれも高評価だったためよくできた（誰の期待も裏切らなかった），といった間接度の高い「ほめ」が確認できる。Oはそれを理解するが，受容も拒絶もせず，その判断を棚に上げて自分が判断できるものではないと，巧みに「ほめ」を回避する。

2.5 「女→女」「男→男」：同性同士の明示的な「ほめ」

⑨　P（女）：Senti, che cosa ti aspetti poi dal futuro? Che cosa ti aspetti?　（将来にはどんなことを期待しているの？）

Q（女）：Mah, io c'ho 80 anni e continuo a girare.　（80歳だけど，まだ映画に出演しているから。）

P（女）：Ben portati, perché sei ancora splendida, splendida!　（全然見えないし，まだまだすごい美人，本当に！）

Q（女）：［ride］E continuo a girare.　（「笑」また映画に出るわ。）

この場面では，名女優が80歳だから将来に大きな期待をせず，とにかく映画を撮り続けると

発言し，司会者はいい意味で年齢に追いついていないと明示的にQの美貌をほめる。Qは微笑むだけで，もう一度自分の意思を述べることで「ほめ」を回避する。

⑩　R（男）：Bravo, ti viene bene Camilleri!　（カミッレーリの物真似，上手だな！）
　　S（男）：Grazie.　（ありがとう。）

司会者RはSによる有名な作家の物真似を見て，Sの物真似の才能を明示的にほめる。SはRの「ほめ」を，感謝を表す“Grazie”で受容する。

2.6 「女→女」「男→男」同性同士の暗示的な「ほめ」

⑪　T（女）：Per il resto insalate?　（他にはサラダとか？）
　　U（女）：Insalate, succhi di frutta, si'…non sono molto…　（サラダ，フルーツジュース，そうね…私はあまり，こう…）
　　T（女）：Beh, si vede, diciamo!　（ま，見ればわかるわ！）

これは，ゲストUの食習慣をめぐるトークである。Uは，かなり健康的な食べ物を主に摂取していると同時に，さほど食通ではないと示唆しているようなことを発言する。なお，映像からUが美貌の持ち主であることが確認できるため，その次のTの発話は一種の暗示的な「ほめ」だと解釈できる。それに対するUの返答はなく，嬉しそうな顔が映るだけで，その返答は沈黙による「ほめ」の回避とみなされる。

⑫　V（男）：Una strage di cuori immagino.　（すごくモテただろうな。）
　　W（男）：Beh, a quello serviva la chitarra, uno comincia a suonare nella speranza di interessare qualche ragazza.　（ま，ギターはそのために必要だったから。女性を振り向かせたいという思いでみんな弾いていたんだから。）
　　V（男）：Non che ne avessi bisogno della chitarra.　（別にギター要らなかったのに，君。）
　　W（男）：No, no c'era sempre bisogno.　（いや，いや，常に必要だった。）

歌手Wは高校時代に女性を魅了させる目的でギターを始めたと語っている。司会者Vは，Wがモテるためには「ギターを始める必要などなかった」と述べているが，ほめ方があまりに暗示的であるため，具体的にWのどの点について言及しているのかは判定しがたい。しかし，ギターを始める必要などないのであれば歌手という職業の特技とも言える「歌う」行為すらもいらないと解釈できる。よって，歌声という才能が「ほめ」の対象から省かれるため，映像からでも窺える可能な選択肢として残るのは，Wの生まれつきの美貌のみである。WはVの意図を理解し，謙遜な態度をとって「ほめ」を断る。

3．結果と考察

本節では番組から抽出された「ほめ」の分析の基で得た結果を表にまとめ，考察を加える。さらに，男女差による明示的および暗示的な「ほめ」と抽出された評価語（言語形式），返答の分類，「ほめ」の対象の分析に基づいた計算結果[3)]を表1と表2に示す。

表1　男女差における「ほめ」の分類

	男→女（26）	女→男（33）	男→男（30）	女→女（16）
明示的ほめ（72）	16（62%）	25（76%）	20（67%）	11（69%）
暗示的ほめ（33）	10（38%）	8（24%）	10（33%）	5（31%）

表2　男女差における返答の下位分類

	男→女（26）	女→男（33）	男→男（30）	女→女（16）
受容（37）	8（31%）	9（27%）	14（47%）	5（31%）
回避（56）	13（50%）	21（64%）	11（37%）	11（69%）
拒絶（7）	4（15%）	1（ 3%）	3（10%）	–
確認不可（6）	1（ 4%）	2（ 6%）	2（ 6%）	–

上述の通り，今回収集した「ほめ」の件数は105件である。本研究で「ほめ」とみなしたのは，映像で確認できる状況の文脈において「話し手も聞き手も両方が良いと認める何かに対し，普段聞き手に向けて発せられる明示的あるいは暗示的に肯定的な評価を与える行為」を表す発話である。Bettoni（2006）が指摘するように，分類には返答が肯定的な場合は「受容」とみなし，否定的な場合は「拒絶」とみなし，そしてどちらとも言えない場合は「回避」とみなした。

しかし，テレビ番組でしばしば確認できた沈黙を取り入れた分類をBettoni（2006）は定めておらず，これをどう分類するかが大きな問題となった。石原・コーエン（2015）ではほめの答えストラテジーとして「返答しない」と言う分類は存在するが，そういった返答は受容・回避・拒絶と切り離されたものとして扱われており，さらなる説明はない。これに対して，山崎・江原（1993）は，「肯定的な評価の場合にも沈黙が生じる場合がある」と「沈黙は必ずしも受け手が話し手の話に対して否定的な評価をする時にのみ生じている訳ではない」と論じている。本研究の検証においては，「ほめ」に対する沈黙は，すべての場合，聞き手の微笑みをもたらし，否定的に首を横に振る，あるいは納得のいかないような表情をするといった「ほめ」の拒絶に傾いた行為は見られなかった。したがって，データにおける沈黙は山崎・江原（1993）の見解に基づき回避としてみなすのが妥当であると判断した。

本研究の分析のために抽出された「ほめ」のすべては，話の内容が明るい場合にしか現れなかった。検証の対象とした57件の番組の中には，ある芸能人が過去に貧しかったこと，親族が

亡くなったこと，交通事故に遭ったことなど，暗い話をする場面も見られた。だが，日本語でいう「大変だったね」,「よく頑張ったね」などといった慰め発話（田中 , 2012）を含む「ほめ」は一切出現しなかった[4)]。

社会言語学的な観点を重視した表 1 で示された結果を見ると，先行研究で指摘されていることと異なり，異性の「ほめ」では意外にも女性から男性への「ほめ」が多い（33 件，表 1 と 2 参照)。このような事実は,「イタリア人男性は女性をよくほめる」といった，ステレオタイプ的なイメージを覆すものである（少なくとも，イタリアの芸能界という文脈において)。実際，先行研究でも指摘されているように，多くの文化では女性の方がよく「ほめ」の対象になることが多い（Alfonzetti, 2013)。しかし，テレビ業界では，特殊な作法が存在する可能性もあり，女性が職歴の長い男性に気に入ってもられるように「ほめ」を頻繁に行う状況も考えられる。したがって，女性の方が男性をほめるという実態は，男社会[5)]である芸能界にしか適用できない記述だと考えることもできる。また，男女とも明示的な「ほめ」が多く（72 件，全体の 69%，表 1 と 2 参照)，常に「ほめ」の大半（62%，76%，67%，69%）を占めている。それに対して，比較的少ない暗示的な「ほめ」の使用は，データを見れば，主に「男性→女性」(38%）の枠でみられる（表 1 と 2 を参照)。

一方で，男性へのこうした配慮が未だ存在しており，イタリア社会には無意識的な男女差別が根付いていると考えられる。この言説を補強するさらなる根拠として，女性が男性に向けて行う暗示的な「ほめ」は全体的に少なく（24% , 表 1）明らかな語用論的な相違を表しているデータが注目に値する。

男性同士での「回避」ストラテジーの場合を別にすれば，一般的にイタリアの芸能界では「ほめ」に対し回避を用いた返答が好まれるようである。また，男性の返答において，ほめ手の性別によって返答が異なっていることは特に興味深いものである。男性は女性から受ける「ほめ」において，27%（表 2）の率でしか受容しない傾向に対し，同性による「ほめ」では 47%（表 2）の率で受容する。無意識に異性との会話において生じる照れによるものか，異性への尊重を表す謙虚さなのか，現時点でのデータのみでは定めにくい。

表3　評価語

	男→女	女→男	男→男	女→女
評価語	Bella, Brava, Grande, Bravissima, Importantissima, Allegra, Spiritosa, Intelligente, Spiritosa, Intelligente, Giovanile	Bello, Sta bene, Vero, Bravo, Carino, Elegante, Notevole, Forma Strepitosa	Bravo, Grande, Genio, Elegante	Stella, Bellissima, Perfetta, Splendida, Semplice

次に，主に明示的な「ほめ」が伴う評価語の使用傾向を確認しよう（表3参照）。“Bravo”（上手）“Bello”（美しい）“Perfetto”（完璧）“Elegante”（エレガントな）のような肯定的な形容詞が圧倒的に多い。そのほか，形容詞の最上級（-issimo/a）や“Genio”（天才）“Stella”（星）のような名詞もわずかに用いられることがある。さらに，表1，2，3を照合すると，男性から女性への「ほめ」があまり収集されていないにも関わらず，男性が女性に送る評価語のバリエーションが比較的に多いという先行研究（Payne, 2013）と異なる興味深い実態が明白になった。

表4　異性と同性同士の「ほめ：に対する返答傾向（「確認不可」を除く）

	明示的ほめ				暗示的ほめ			
	受容	回避	拒絶	合計	受容	回避	拒絶	合計
男→女（25）	6（37%）	10（63%）	–	16	2（22%）	3（33%）	4（45%）	9
女→男（31）	6（26%）	16（70%）	1（ 4%）	23	3（37%）	5（63%）	–	8
男→男（28）	9（50%）	7（39%）	2（11%）	18	5（50%）	4（40%）	1（10%）	10
女→女（16）	4（36%）	7（64%）	–	11	1（20%）	4（80%）	–	5

イタリアの芸能界における「ほめ」に対しては「回避」という返答ストラテジーが一般的に用いられることについてすでに触れたが，その点はこの表4においても確認できる（「回避」の合計は56件で，全体の53％を占める）。沈黙や微笑みなどによって同時に自慢することおよび相手の発話を否定することが避けられている。これはイタリア文化における合意の原理と謙遜の原理（「はじめに」を参照）に対する解決方法とも捉えられる。

分析の結果では，ほめ手が男性でも女性でも，受容は比較的同じ割合で見られるが，「回避」の件数は女性が明示的な「ほめ」あるいは暗示的な「ほめ」のほめ手である場合だと男性が「回避」する確率が非常に高い（70％）。その一方，女性も回避を好むが，男性による暗示的な「ほめ」に対しては4回（暗示的な「ほめ」の半分）もの拒絶を行なっており，同性の「ほめ」に対し一度も否定しなかった。

次に，ほめられる対象の性別が，受容の場合に与えている影響も考察の対象になりえよう。全体的に女性より男性の方が明示的な「ほめ」も暗示的な「ほめ」も多い傾向がある（男性は 23 件で，女性 13 件，表 4 参照）。暗示的な「ほめ」の受容（男性は 8 件で，女性は 3 件，表 4 参照）の方が珍しいと思われるが，先ほど述べたように今回収集された暗示的な「ほめ」が全体的にさほど多くないので，どこまで信頼性のあるデータであるかは検討しがたい。

イタリアの芸能界では，主にポジティブ・フェイスが重視されているため（Alfonzetti, 2007），明示的な「ほめ」に対し回避および受容が好ましいが，暗示的な「ほめ」の場合は（男性同士では 50％（表 4 参照）の受容が唯一の例外）性を問わず回避の方が用いられることが多い（16 件で全体の 52％，表 4 参照）。この結果が示しているのは，芸能界で観察されるイタリア人の文化において，明示的および暗示的な「ほめ」への返答に対し，性による異なった振る舞いが存在するが，それより重視されるのはほめ手の性であるという事実である。すなわち，「ほめ」を受容，回避，または拒絶をする以前にも，送り手の性を伺う傾向があると言える。

最後に，今回扱ったデータにおいて「ほめ」の対象となった者の属性について検証を加えたい。

表 5　テレビ番組で確認されたほめの対象

	男→女	女→男	男→男	女→女	合計
才能	13（50%）	17（52%）	17（57%）	3（12%）	50（48%）
美貌	1（ 4%）	5（15%）	1（ 3%）	7（33%）	14（13%）
性格	7（27%）	7（21%）	5（17%）	4（33%）	23（22%）
容姿	3（12%）	1（ 3%）	6（20%）	2（22%）	12（11%）
服・スタイル	2（ 7%）	3（ 9%）	1（ 3%）	–	6（ 6%）

さほど驚くことではないが，芸能人の間では，「才能」という属性を対象にした「ほめ」が頻繁に出現する（全体の 48％，表 5 参照）。ここで，「才能」という概念の中には様々な要素が含まれていることを断っておかなければならない。たとえば，演技，実績，想像力，記憶力，料理，頭の良さなどといった属性が，今回の分析で「才能」としてみなしたものである。文脈（インタビューではゲストのキャリア，受賞，特技に関する話題が多く触れられる）に強く依存すると思われる「才能」を対象にした「ほめ」の次に，「あなたのような感じのいい人は他にいない」「若いのに，非常に繊細で気がきく」といった「性格」についての「ほめ」が多い（23 件で全体の 22％）というデータは（女性同士の会話を除く），イタリアのテレビ番組では内面的な要素に高い価値観が与えられていることを示しうる。これは中国社会や日本社会のような「ほめ」を通して内面を多く評価する東アジア文化に比べて，ヨーロッパでは内面より外見を重視することが多いという先行研究の指摘（Alfonzetti, 2013; Bettoni, 2006）と異なるものである。とりわけ Alfonzetti（2013）は，イタリア人は主に外見（美しさ，若さ，髪型，上品さ，元気さ，服装，所持物など）を評価する傾向にあると指摘しているが，本研究の結果を見れば同様のことは言えない。

外見に関する属性では，「綺麗だね」「美しい緑色の目をしているね」など，顔面を中心とした「ほめ」の全ては「美貌」に属し，14 件（全体の 13%）抽出された。そして驚くべきことに，こうした「ほめ」の在り方は，男性ではなく女性に見られる。これは女性が男性（もしくは女性同士で）にすることが多いという分析の結果に基づくが，イタリアの男性にまつわるステレオタイプを否定するものでもあろう。同様の外見においては，「痩せている」あるいは「痩せた」「肌がちょうどいい日焼け具合だね」（イタリアでは一般的に白い肌より，多少日焼けした肌の方が健康的で美しいとみなされる）といった「ほめ」を身体にまつわる要素としてみなし，「容姿」（11%，表 5 参照）を対象にした「ほめ」として分類した。他にも，「容姿」には，多くの発話で確認できた「（体が）元気そうである」「（身体は）若々しい」といった形容表現が含まれる。いずれにせよ，本研究で得た結果は，イタリアのテレビ業界において，相手の容姿に一定の価値が与えられていることを示している。だが，仮にここに「綺麗な服を着ているね」，「そのネクタイが似合っているよ」といった「服・格好」を評価する「ほめ」（全体の 6%（表 5 参照）で最も少なく評価される属性である）も「美貌」と「容姿」のように外見に関する「ほめ」に含めたとしても，外面的な要素を対象にした「ほめ」が占める全体の 30%（表 5 参照）にしかすぎない。これに対して，内面的な要素（才能・性格）を賞賛する発話は 73 件（全体の 70%，表 5 参照）も観察されるのである。これを踏まえ，本研究で分析したのは，イタリア人が中身よりも外見を重視するという通念を覆しうる，特筆すべき結果である。

終わりに

本論文ではイタリアの芸能界で見られる「ほめ」の社会言語学的な分析を行い，「ほめ」の様々な側面に考察を加えた。具体的には，「ほめ手」と「受け手」のそれぞれの性別，および「ほめ」の対象となる事柄の差異に注目しつつ，それぞれのパターンの頻度を検討した。そこで本研究の分析で明らかになった点を以下にまとめる。

- 言語形式の面では，今回分析の対象となったイタリアの芸能社会の一部において明示的な「ほめ」が頻繁に見られる。異性による会話では女性の方が相手をほめるが，全体的に男性の方が「ほめ」を行う。実際に男性が異性に贈る「ほめ」に対し同性に向ける「ほめ」が多い。また，男性は豊富な評価語のバリエーションを用いながら，女性に比較的に多くの暗示的な「ほめ」を贈ることが観察された。
- 一般的に「ほめ」を回避する（56 件で全体の 54%，表 2 参照）返答ストラテジーが好まれるが，受容，回避，拒絶にあたって，重視されるのがほめ手の性である。
- 「才能」は（48%）圧倒的に「ほめ」の対象になることが多いが，その次に「容姿」（11%），「美貌」（13%）といった側面的な要素よりも内面的な「性格」（22%，すべて表 5 参照）が大きな社会的価値を有し，テレビ番組で見られるイタリア社会においては内面的な要素の方

が評価されることが明らかになった。

テレビ業界は「社会の鏡」と呼ばれる世界である。それ故，本研究の成果はイタリアの一般社会の考察においても一定の意味をもつものとなりうる。分析において扱われたテレビ番組は，司会者の質問に基づいた会話（台本に基づいていないインタビュー）で形成されており，イタリア語の「ほめ」実態に関して得られた結果に高い信憑性があると思われる。

本研究が示唆するように，業界や社会層によって社会言語学的な要素は異なる可能性が十分ありうる。今回得た結果のさらなる実証のために，先行研究にあるように一般人のみならず，幅広くあらゆる社会層や業界の人々による自然な会話を分析の対象にし，イタリア社会における「ほめ」の新しい真相を突き止めることを目的とする研究を進めていく予定である。

注

1) 遂行動詞に基づく発話内行為の特性を表した分類。詳しくは Searle（1969），Pomerantz（1978）を参考。
2) 本研究で行われた分析では Bettoni による返答分類が応用された。なお，判定基準になったのは言語学的な要素（発話自体）やパラ言語情報（顔の表情や沈黙など）である。
3) 本研究のデータはカイ二乗検定によって検定された。その統計学的有意水準は（P=0.10）にのぼり，90％の場合に同じ結果が得られる可能性があることを指し示す。
4) この点はイタリア語の「ほめ」がポジティブ・フェイスを重視する傾向にあると先行研究（Alfonzetti, 2007）を補強するものになっていると言える。
5) 有名な司会者のリリー・グルーバーのインタビューではこの問題に関する女性の観点が窺える。https://www.donnamoderna.com/news/cultura-e-spettacolo/lilli-gruber-libro　アクセス日：2020.6.26

参考文献

Alfonzetti, G. 2007. “I Complimenti nella Conversazione: Criteri e Problemi di Categorizzazione” In *Actes du XXIV Congrés International de Linguistique et Philologie Romanes 13*, 211–223. Tübingen: Niemeyer.

Alfonzetti, G. 2009. *I Complimenti nella Conversazione.* Roma: Editori Riuniti.

Alfonzetti, G. 2011. “I Complimenti nella Competenza Metacomunicativa dei Parlanti” In *Cortesia-Politesse-Cortesía. La cortesia verbale nella prospettiva romanistica*, 211–227. Francoforte: Peter Lang.

Alfonzetti, G. 2013. “Compliment and Responses in Italian” In *Linguistic Studies of Human Language*, 275–289. Athens: Athens Institute for Education and Research.

Austin, J.L. 1962. *How to Do Things with Words*. Oxford University Press.

Bettoni, C. 2006. *Usare un’Altra Lingua: Guida alla Pragmatica Interculturale*. Bari: Editori Laterza.

Brown, P. and Levinson, S. 1987. *Politeness, Some Universals in Language Usage*. New York: Cambridge University Press.

小玉安恵．1993.「ほめ言葉にみる日米の社会文化価値観：外見のトピックを中心に」,『言語文化と日本語教育』6，22–35．東京：お茶の水大学.

Diadori, P. and Micheli, P. 2010. *Cinema e Didattica dell'Italiano L2*. Perugia: Guerra Edizioni.

Herbert, R. 1990. "Sex-Based Differences in Compliment Behavior" In *Language in Society 19*, 201–224. Cambridge: Cambridge University Press.

日向ノエミア．1996.「ほめことばの日伯比較―感謝とほめことば―」『日本語学』15，50–58．東京：明治書院.

Holmes, J. 1986. "Compliments and Compliment Responses in New Zealand English" In *Anthropological Linguistics 28*, 485–508. Bloomington: Indiana University.

Holmes, J. 1988. "Paying Compliments: A Sex-Preferential Politeness Strategy" In *Journal of Pragmatics 12*, 445–465. Elsevier.

古川由理子．2010.「「ほめ」が皮肉や嫌みになる場合」,『日本語・日本文化』36，45–57．大阪：大阪大学日本語日本文化教育センター.

Leech, N. Geoffrey. 1983. *Principles of Pragmatics*.

石原紀子・アンドリー D. コーエン．2015.『多文化理解の語学教育：語用論的指導への招待』東京：研究社.

丸山明代．1996.「男と女とほめ：大学キャンパスにおけるほめの行動の社会言語学的分析」,『日本語学』5，68–80．東京：明治書院.

Nelson, G., El Bakari, W. and Al Batal, M. 1993. "Egyptian and American Compliments: A Cross-Cultural Study" In *International Journal of Intercultural Relations 17*, 293–313. Elsevier.

大野敬代．2010.『日本語談話における「働きかけ」と「わきまえ」の研究―目上に対する「ほめ」と「謙遜」の分析を中心に―』，博士論文．東京：早稲田大学.

大滝敏夫．1996.「ほめことばの日独比較」『日本語学』15，43–49．東京：明治書院.

Payne, S. 2013. "Compliment Responses of Female German and Italian University Students: A Contrastive Study" In *Language Studies Working Paper 5*, 22–31. Reading: University of Reading.

Pomerantz, A. 1978. "Compliment Responses: Notes on the Co-operation of Multiple Constraints" In *Studies in the Organization of Conversational Interaction*, 79–112. New York: Academic Press.

坂本恵・ナジェージダウェンベルグ．2017.「ほめの諸相―日本語母語話者は何をほめと認識するか―」,『留学生日本語教区センター論集』43，121–135．東京：東京外国語大学.

Searle, J.R. 1969. *Speech Acts*. Cambridge: Cambridge University Press.

田辺洋二．1996.「ほめことばの日・英語比較」『日本語学』15，33–42．東京：明治書院.

田中妙子．2012.「ドラマのシナリオに見られる「慰め発話」の諸相．『日本語と日本語教育』(40)，49–67．東京：慶應義塾大学の日本語・日本文化教育センター.

Turner, R. and Edgely, C. 1974. "Reciprocity Revisited: The Case of Compliments" In *Human Mosaic 8*, 1–13.

ウェインベルグ N. 2016.「日本のビジネス場面のほめ言葉―日露ビジネス関係者の点から―」,『日本語・日本学研究第』6，163–181．東京：東京外国語大学国際日本研究センター.

山崎敬一・江原由美子．1993.「沈黙と行為―規範と慣行的行為―」『ソシオロゴス』17，57–78．東京：東京大学大学院社会学研究科.

参考動画（各番組の URL 及び本稿で取り上げた芸能人の名前とそのインタビューの URL を表示している）

Che tempo che fa :

https://www.raiplay.it/programmi/chetempochefa

Gigi Proietti：https://www.raiplay.it/video/2018/12/Le-barzellette-di-Gigi-Proietti-12122018-6dc70301-11a1-4472-80ea-5323e6a1fa6c.html　アクセス日：2019.2.24

Teo Teocoli：https://www.raiplay.it/video/2019/02/Teo-Teocoli-24022019-256aa512-901c-475d-a596-b0bd476c793d.html　アクセス日：2019.2.26

Valentino Rossi：https://www.raiplay.it/video/2019/01/Valentino-Rossi-27012019-fabce31f-9195-446e-8406-1c90217eda8f.html　アクセス日：2019.2.19

Piero Angela：https://www.raiplay.it/video/2018/12/Piero-Angela-una-carriera-ricca-di-soddisfazioni-16122018-307b2bf8-7a51-4379-b2c3-08355b08889d.html　アクセス日：2019.2.19

Domenica in :

https://www.raiplay.it/programmi/domenicain

Claudia Cardinale: https://www.raiplay.it/video/2018/12/Claudia-Cardinale-la-mia-importante-carriera-artistica-02122018-2578d6f6-109f-42c0-82ff-513627c30f2c.html　アクセス日：2019.2.25

Vanessa Incontrada: https://www.raiplay.it/video/2018/11/Vanessa-Incontrada-ospite-a-Domenica-In-25112018-bb104c87-f34a-4669-b10c-2c79bc70a9ad.html　アクセス日：2019.2.20

Stefano Di Martino: https://www.raiplay.it/video/2019/02/Stefano-De-Martino-la-mia-vita-tra-amori-famiglia-e-carriera-24022019-2d0ccd83-5610-4123-acbf-bc3c7adf082d.html　アクセス日：2019.2.26

Lorella Cuccarini: https://www.raiplay.it/video/2018/12/Lorella-Cuccarinila-mia-famiglia-e-la-carriera-02122018-bfea5964-0350-4939-aa36-2313fa09d485.html　アクセス日：2019.2.21

Christian De Sica, Massimo Boldi: https://www.raiplay.it/video/2018/12/Christian-De-Sica-e-Massimo-Boldi-Amici-come-prima-16122018-34053157-6963-46cb-bd80-abba7f292396.html　アクセス日：2019.2.22

Vieni da me :

https://www.raiplay.it/programmi/vienidame

Dario Argento: https://www.raiplay.it/video/2018/12/Dario-Argento-tra-carriera-e-vita-privata-14122018-6ae3c899-0bd8-447d-8696-c5592328dfa3.html　アクセス日：2019.2.25

Martina Stella: https://www.raiplay.it/video/2018/12/Martina-Stella–lultimo-bacio—06122018-f622d8b4-a81d-486a-8ebf-7292bb7ed897.html　アクセス日：2019.2.23

Claudio Cecchetto: https://www.raiplay.it/video/2018/12/Claudio-Cecchetto-il-mio-amico-Fiorello-13122018-e8f56258-2f93-4235-a4ba-c3f82249e126.html　アクセス日：2019.2.23

Nonna Rosetta: https://www.raiplay.it/video/2019/02/Casa-Surace-Nonna-Rosetta-con–Beppe-e-Daniele-27022019-6fe2dd60-1804-4437-a7c7-6f91e3b44580.html　アクセス日：2019.2.27